

新任教師 オリエンテーション

憲・教規による「一致の重要性」が強調され、聖典の大切さを語られた。最後に戒規に関する資料が配付され、戒規は懲罰ではなく、悔い改めへの促すことの説明がなされた。

『特別講演』

2日目は、窪寺俊之聖学院大学大学院人間福祉学研究科科長による「終末期患者への牧会的配慮」と題して、講演を伺った。窪寺教授の淀川キリスト教病院スピスでの末期ガン患者との関わりを通して、終末期患者がどんな心理状況にあり、その中で終末期患者が等しく感じる痛み「スピリチュアルペイン」についての説明があった。スピリチ

ユアルペインに対し、牧師だからこそできるスピリチュアルケアがある。それは、キリストの十字架の贖いこそが、終末期に襲われる自分の人生に対する悔恨の念に赦しを与えて、同時に、天国へとつながれる永遠の命の希望、すなわち、死んだ後の行き先を見いだすことによって、スピリチュアルペインを福音によってケアできることが語られた。

有
▼社会委員会報告◆
6月17日～18日、第38総会期第5回社会委員会が教団会議室にて開催された。冒頭、「シリリア難民支援救援募金」として215万9,153円(総184件)がEMS(連帯福音宣教会)へまた「フィリピン台風被災者救援募金」として1千158万9,700円(総580件)がACT(Action by

をして協議を行った。そこでは、去る5月21日、福井地裁において下された大飯原発稼働差し止め判決の意義、殊にそれに日本国憲法に定められた人格権の視点

おして書記による講演「震災の教団の取り組みについて」がなされた。被災教区の教師たちが教団書記という立場から、全体教会としての教団の取り組みの経過と共に、

求める研鑽の重要性が語られた。

一致のほかは、自由であり多様であることが教団の教義性定義を通して、靈性を特にA・E・マクグラスの規であることが強調された。この契約内容に基づく内容は信仰告白と教憲教規であることが強調され、教団に所属し、教団と契約関係にあること。契約の内容は信仰告白と教憲教規であることが強調された。この契約内容に基づく

教団の機構について》
昼食を挟んで、午後には崎哲夫総幹事より、教団の機構についての説明があった。教団の機構についての説明があり、学びを深めることで教の一員としての力をつける。日本基督教団という背号を全員が背負って、日教区と教会の会議制についての説明を皮切りに、教団と伝道のみ業に仕えること、あることの重大性を指摘される声や、東日本大震災支関連報告のほか、違法(除外)薬物汚染問題、農薬染問題など多岐にわたる諸問題の存在を指摘する声が流れ、新しい気づきと情られ、新規な開拓へと繋がった。
出席者からは教区としてべき合うべき諸課題を認知つつも、そのすべてに反応があった。
呼びかけることとした。主要な協議としては、本委員会直前に開催された第3回会期全国社会委員長会を受けて、その評価と反

引き続いて「教団の取り組み」として、教団事務局佐々木美知夫委員長、部長道家紀一教団総務幹事)、解説センター(小林明主理事長)、宣教研究所(竹澤知代志出版局長)、年金局・隠退教師をえる運動(藪田安晴年金理事長)、宣教研究所佐々木美知夫委員長)、部長道家紀一教団総務幹事)、解説センター(小林明主のそれぞれの働きや取組みの紹介がなされた。後に教師委員長より「おとセクハラとの対処について具体的な事例を通して、それぞれの場面における対処と心構えについて示された。お金もセクハラも、害者に対する重大な犯罪行為であるにどまらず、各講題、題、し合されると、それを「主役」に据えて招き、「師」を担当する語りうこた。「牧師」た。

や教団の信用にまで及ぶ柄であり、常に意識をして対処すべき問題としき止める時を持った。は分団の時間を持ち、演についての感想や、それの働きの紹介と課題悩みや喜びが活発に話された。今回の分団も、担任教師として招聘された教師「付属施幼稚園など）のある教員に分けられ、同じ課題についている教師が、それに今感じていることを合い、重荷を分かち合ふことが出来たのは良かつた。

（村上恵理也報）

されしていくことの絆する意見が多數見受けられた。「ケンカをしない教団を自分たちの世する。そのためにも今ちを大切にして遣わいきたい」との意見された。

に吉澤永書記による挙をもって、すべてグラムを終えた。

教師たちが今後の働くにおいて豊かに用いことを心から祈りつまれた新任オリエンションを終えることが感謝であった。

（吉澤 永報）

宇都宮教会献堂式

宇都宮教会会堂式が、
6月15日、関東、東京、中
部教区の33教会、120人
が出席して行われた。

題する説教で、「会堂建築は、単に建物の建築でなく、教会形成、教会の信仰を作るものだった。

言葉を交わすよりもなま黙々と会堂の清掃に取り掛かった。翌土曜日、何とかして礼拝の場所を作ろうと、講壇を1階の集会室に降ろした。

の先に甦りの命があることを、改めて信じることが出来た。

み
聖隸宣を匪すようは左
右に広がる。総工費 1億 2
千 452万円、教団支援 6
千 447万円、教団貸付 3
千 950万円、残りは自己
資金、全国からの献金でま
かねつ。

◎日 時 2014年
◎主 題 「信徒訓
◎講 師 岡本知
藤掛順一、長山信
◎チャブレン 小島
◎会 場 東京神学

- ◎会場 東京(予定)
- ◎参加費 4,000円
宿泊は各自自弁)
- ◎申込先 七條真理
FAX 03-3333-2470
- ◎〆切 2014年
- ◎対象者 教規第
コース出身者お
2010年以降に准
*プログラム詳細は

伝道推進室「夏期研修会」

◎日 時 2014年8月12日(火)～
14日(木)

◎主 題 「信徒訓練～役員会形成～」

◎講 師 岡本知之、大友英樹、菅原力、
藤掛順一、長山信夫、内藤留幸、楠本史郎

◎チャブレン 小島誠志、大隅啓三

◎会 場 東京神学大学

◎参加費 4,000円(食事付／交通費と
宿泊は各自自弁)

◎申込先 七條真明(TEL 03-3333-2465、
FAX 03-3333-2470、高井戸教会)

◎〆 切 2014年8月4日(月)

◎対象者 教規第3条6項による者(C
コース出身者および受験者)ならびに
2010年以降に准允を受けた教師

*プログラム詳細は教団HP、ucci.orgで。



もあり、「会員35人、資金ゼロ、当初は茫然と立ち尽くした」(片岡大作・建築委員長)が、2011年10月の臨時総会で「現在地に再建しよう」と全員が一つになった。

刈り取ることが出来た。主が働いて下さっていることを実感している」と語った。出席者が1人ずつ、宇都宮教会との交わり、大震災のこと、再建のことを語り合った。皆が大きくなづき、時に涙し、励ましを受けた献堂式となつた。

前橋	辞(主)大賀幸一	隱退より復帰
就(主)川上 盾	岸本和世 大森清一、	京都丸太町就(主)大賀幸一
就(主)隅野 徹	荒川義治、佐伯恒道、	香川 辞(主)隅野 瞳
就(主)隅野 徹	教会所在地名変更	辯(代)隅野 瞳
就(担)隅野 瞳	燕 〒959-1-244	辯(代)黒田若雄
就(主)田島和徳	市中央通2-3-48	辯(代)成田信義
辯(代)成田信義	三里塚 〒286-0-116	三里塚 幼稚園気付
7 4	成田市三里塚御料1-6	

就(担)土肥香織	大阪女学院中学・高校
辞(主)福永秀光	就(教)宮岡信仁
就(代)林巖雄	就(教)宮岡信仁
就(担)大坪哲也	善通寺
就(担)大坪哲也	辞(代)高橋伸昭
就(担)野本千春	就(代)尾崎公助
就(担)野本千春	教師隠退
就(主)三浦 啓	風間直次郎、佐藤 博、
就(主)三浦 啓	濱邊達男、上野清次郎、
就(主)櫻井義也	織田信行、栗原昭正、
就(主)櫻井義也	福富秀明、寺島昭二、
成川 晃	成川 晃

安行教会50周年記念礼拝に説教
者として招かれた。安行教会はかつて越谷教会が親教会であり「安行教会は私の青春だ」という2人の信徒も同行し、この信徒たちから、越谷から安行へバスもない不便な地に自転車で牧師と共に伝道に向った青年時代の思い出を聞きながら安行に向った。

安行教会は、今でも不便な地に
あるが、勢いのある教会に成長した。安行教会 田中かおる牧師は、「札拝の充実」に全力を注ぎ、「札拝第一」の教会形成をしてきたが、今、その実を結んでいる。最近、

現在の敷地より数倍広いかにみえる（実際はほぼ同じ広さ）隣接地を購入、駐車場には困らない教会になっていた。

私は埼玉一筋に歩み、何度も安行教会の説教奉仕をして来た。そ

感動－あの女子高生たちが今なお－

の時、楽しみにしてきたことがある。あの印象深い女性信徒たちに会うことだ。私が高校3年生の時から教会を支え続けている。このことは驚きであり感動だ。

新しい信徒も沢山増え、会堂一杯の礼拝者たちと共に力にあふれる札拝を獻げることが出来た。感動の記念礼拝であった。

から6名の女子高校生が参加した。この6名の女子高校生たちは印象深かった。彼女たちの内、結婚して他の地に転居した者もいるが、5名が安行教会を支え続けてきた。この女性信徒たちに50周年記念礼拝でもお会いすることが出来た。50年間、高校1年生の時から教会を支え続けている。このことは驚きであり感動だ。

（教団総会議長 石橋秀雄）

岡山から離れずに大学に進學し、教会内で結婚。医者の務めの中で、礼拝出席は必ずしも良い方でもないのに、辞退者の故、長老へと繰り上げ選出された時には頭の中が真っ白になつた。長老当選を機に、当直勤務以外は出席するようになつた。中学の頃から憧れた僻地医療の思いが強く、海外を見据えてけ入れられ、50キロ程離れていた時に、仕事を交代してもらい駆けつける。わいながら、教会員の葬儀が入った時には、仕事を交代してもらひ駆けつける。

42年ほどの長老の歩みの中で、二回の会堂建築にも関わつた。旧会堂建築の話し合いの時に、長老の一人が「長老たちで

はうやくなつた。29年務めた後、妻の病気も考慮し、岡山の病院に移つたが、十日の条件は、やはりはつきり申し出た。

今までの歩みを振り返つて、こう思う。「この世的にはいい働きができたのかはわからない。ただし、教会と家族に対しても、眞面目でよかつた」。

れ、福田 範三さん



1942年、岡山市生まれ。蕃山町教会教員。